



〔愛知県名古屋市〕

診療所の
IT活用事例

4

星ヶ丘クリニック

院長 河原崎 富強氏

稼働電子カルテシステム

SimCLINIC T3 α
(島津製作所／島津メディカルシステムズ)

検査機器連携による診療の効率化、 職員負担低減への寄与を高く評価。 訪問診療ツールとしても日々活用

星ヶ丘クリニック院長の河原崎 富強氏は、1999年の研修医時代より電子カルテで診察を行い、2005年の開業時から診療所向けシステムを活用してきた。その間、2社の電子カルテを経験し、16年10月に島津製作所／島津メディカルシステムズの統合型電子カルテシステム「SimCLINIC T3 α」に更新。「画像情報管理・活用の効率化、訪問診療の円滑化を目指した」と目標を語る河原崎氏に、導入から1年以上が経過した成果を中心に聞いた。

画像管理の効率化を目的に 電子カルテシステムを更新

——電子カルテ更新の経緯と望んだ要件から、お聞かせください。

私は、全国規模でみても電子カルテでの診療をかなり早期から経験する機会に恵まれたと思っています。具体的には安城更生病院（安城市）の研修医時代（1999年）から使用しており、当時から開業の暁には電子カルテで診療を行うと決めていました。現在活用している島津製作所／島津メディカルシステムズ「SimCLINIC T3 α」は、2005年4月の開業から数えて3代目の診療所向け電子カルテです。16年10月に同システムを導入しましたが、更新に際し目標に掲げたのが「画像読影環境の再構築」でした。

従来のITシステムは、開業当初からの課題の1つだった画像サーバの容量不足に関しては及第点だったのですが、画像管理が可能なモダリティに限られてしまい、これは診療上、非常に不便でした。例えば超音波画像はシステム管理に対応しておらず、装置のある第2診察室に足を運び、電源を立ち上げて装置で直接画像を確認する必要があったのです。加えて、内視鏡画像もシステムに取り込めませんでした。このため、全ての検査画像

を電子カルテで一元管理できることと、その画像情報を同端末画面で閲覧できることが、新システムには必須の要件でした。また、電子カルテと画像ファイリングシステムが別体ゆえマウスとキーボードを個々に用意・操作しなければならない不便さも解消したいとも考えていました。

それらの要望を中心に数社製品を比較検討した結果、医用画像表示ソフトウェアを標準で搭載する「SimCLINIC T3 α」の導入に至ったのです。

——実際に診察で使用されて、医用画像表示ソフトの使い勝手はいかがでしたか。

ひと言でいうと「期待以上」でした。特に、電子カルテに取り込んだデータをキー画像として簡単にカルテに貼り付けることができ、同画像をクリックするだけで画像用端末に表示できるシームレスな連携が可能な点に気に入っています。また、一元管理する画像の検索等の操作が容易に行えることもあり、診療効率が以前よりも格段に上がったのは確かですね。

もう1つ、営業担当者から紹介され、導入を決めた「SMS-Link」の機能も高く評価しています。これは「SimCLINIC T3 α」と島津製X線撮影システム等との連携性を高めるオプションですが、電子カルテから各装置へのダイレクトな患者情報入力が可能となります。これによ

りX線検査室に移動して患者氏名やIDを装置に入力する手間がなくなった上、撮影画像の転送が瞬時に行われることで検査結果待ち時間が短縮され、患者さんにも大変喜ばれています。

ちなみに営業担当者の対応は、「さすが医療機器の老舗」と感心するほど親身かつ丁寧であり、アフターサービスも含め本当に助かっています。担当者に直接、気兼ねなく問い合わせ等ができることは、診療継続の観点からも何物にも代えがたいものと考えます。

——電子カルテの機能に関する所感をお聞かせください。

カルテ画面の視認性や入力操作のしやすさ、テンプレートやセットメニューの使い勝手など、電子カルテの基本機能は申し分ありません。分割表示される過去・本日カルテの記載情報は非常に把握しやすく、各機能のボタンを直感的に選択・操作することができます。また、診療の傾向等に合わせて検査や処方セットを作っておけばオーダー入力が容易に行えますし、キーボードのファンクションキーにカルテの各機能を任意設定して使うショートカット機能もとても便利です。

その他、患者さんの来院目的や検査の有無などを一覧確認できる診察状況モニタや、患者さんの来院リストも日常的に

Clinic Information

星ヶ丘クリニック



住所：愛知県名古屋市中東区西里町5-35
電話：052-709-6855
標榜科目：内科、小児科、消化器内科

充実した検査機器、丁寧な診察により 「かかりやすいクリニック」を目指す

2005年4月に開業し、08年10月に現在地へ新築移転。「地域密着型の姿勢を貫き、地域住民の方々の悩み解決を全面的に支援する」を診察のモットーとしている。閑静な住宅街に位置しながら20台の駐車場を設置するなど、患者サービスの徹底もクリニックの特徴の1つ。

診察は通常の外来の他に、月・火・金の13:30～15:00を訪問診療専用の診察時間とし、現在、

100名以上の在宅患者を診療。検査機器は充実しており、X線検査室にX線撮影システム+FPDシステム、第2診察室に超音波画像診断装置、検査室に内視鏡システム、処置室に心電図や血液検査システムなどを設置。検査画像は全て電子カルテと連動・管理する体制をとる。

スタッフは、医師1名、看護師2名、事務職員4名。1日の平均外来患者数は約50名。

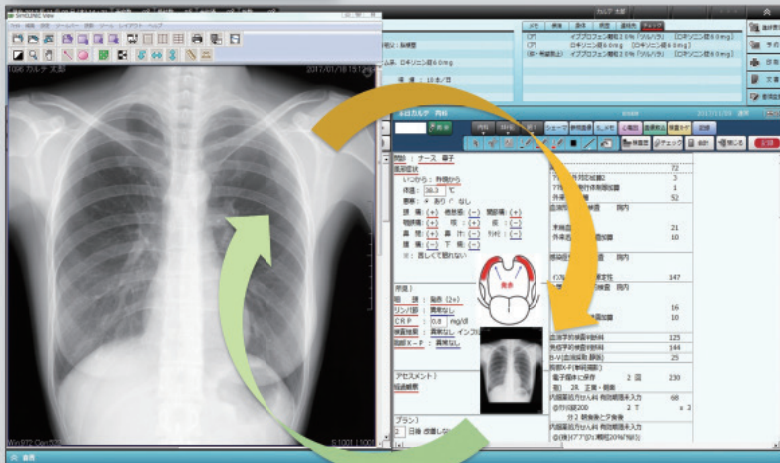
カルテ画面

The screenshot displays a medical record interface with a top navigation bar and a main content area. The top bar includes patient ID (1007), name (カルテ ハナコ), and other basic information. The main area is divided into sections for '過去カルテ' (Past Records) and '本日カルテ' (Today's Record). The '過去カルテ' section shows a list of past examinations and results, including chest X-rays and blood tests. The '本日カルテ' section shows the current examination results and a list of orders. The interface is designed for easy navigation and data entry.

画面左に過去カルテ、右側に本日カルテを表示した見やすいレイアウトが特徴。診療の必要に応じて、オーダーパレットや来院リストなどの機能を表示できる

ビューリング

ワンクリックで
カルテに画像を貼り付け



検査のキー画像をカルテに
貼り付けられる。貼り付け
た画像をクリックすると瞬
時にビューアで画像を表示。
閲覧目的に画像を探す手間
もない

貼り付けた画像をクリック



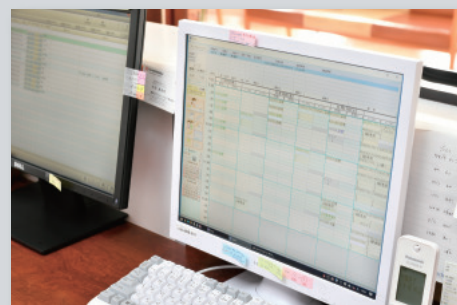
島津製X線撮影システム等との連携性を高めるオプション
「SMS-Link」の選択により、検査オーダーの効率が格段
に向上

内視鏡や超音波、心電図等のデータを一元管理・活用
できる体制の構築が電子カルテ更新の目的の1つ

星ヶ丘クリニック システム構成図



2台ある受付端末の左側に医事会計、右側に来院リストを表示。事務職員の業務効率化を図る



受付端末の右側に診療予約用の端末を設置。来院患者のみならず来院予定患者の情報も把握できる

活用、かつ高く評価している機能です。なお、受付用2台の端末は、左側を医事会計用、右側を来院リスト用として患者関連情報を並列表示し、事務職員業務の効率化および院内情報共有を図っています。

iPad訪問診療支援システムは医師と職員の負担低減に寄与

——システム更新の際、どのような点を工夫されましたか。

当クリニックは外来の合間に訪問診療を行い、在宅患者数が今や110人にまで増えていることから、訪問診療の効率化を以前から計画していました。それゆえ、「SimCLINIC T3 α」でiPad用の在宅診療支援アプリ「SimCLINIC Mobile」が選択できることも、同機器へ更新する決め手の1つとなったのは確かです。

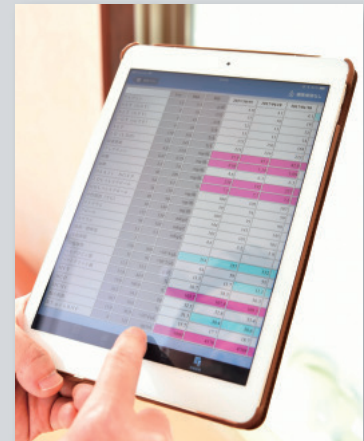
以前、試しにノートPCで訪問診療に行っていた時期があったのですが、システムの立ち上げに時間を要したり、入力場所が限定されたりする点がネックとなり、しかたなく外来診療は電子カルテ、訪問診療は紙カルテで運用してきました。今回このオプションを選択したことで、患者宅での前回診療や検査結果の確認、当日情報のカルテ記載がノートPCや紙カルテの時代よりもはるかに容易となりました。加えて、iPadのカメラで撮影した褥瘡の写真も貼り付けられるようになったことも便利です。情報入力の方に少し不満はあるものの、全般的に訪問診療の機動力と効率が格段に上がったことを肌で感じています。

さらに、「SimCLINIC Mobile」が事務職員の負担低減に寄与していることも

評価したいです。例えば訪問前のカルテ準備が必要なくなった上に、その日の診療内容を患者宅からクリニックに送信できますから、私の帰院を待たずに会計処理等の作業が進められるようになっており、このメリットはとて大きいです。——電子カルテの更新が経営改善に貢献していると感じられている点がありましたら、お聞かせください。

冒頭述べた画像連携が、検査数の増加につながっていることが挙げられます。換言すると、「作業の効率化により検査当たりの所要時間が短縮された結果、1日に可能な検査数が増えたため、必然的に増収となった」ということです。1日で可能な検査数は、概算でX線検査が約1.5倍、超音波検査は約2倍に増えています。

X線検査に関しては、「SMS-Link」が

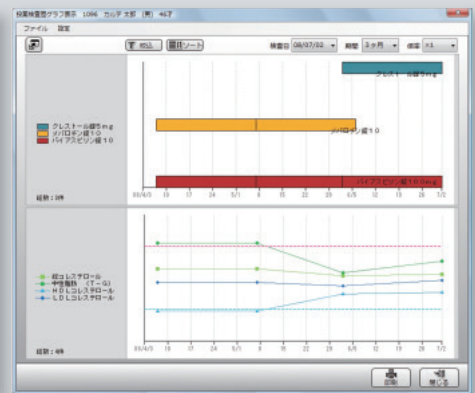
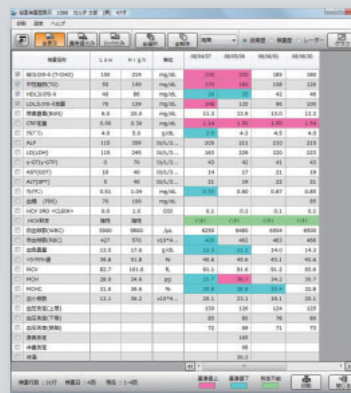


「SimCLINIC Mobile」はiPad用の在宅診療支援アプリ（オプション）。スケジュール等の情報も表示できる

検査・投薬歴連動表示



検査結果の時系列表示・投薬の連動グラフ表示が可能。検査機器との連動性は良好でシステムを操作しやすい



検査時間の短縮にも貢献しています。検査をオーダーすると患者情報が自動的に装置に反映されることで、それ以降の検査準備の一部をスタッフに任せられるようになったからです。「SimCLINIC T3 α」への更新後は、看護師や事務職員が交代で装置側の患者情報の確認から位置合わせまでを行ってくれるようになっており、私が最終的に位置合わせ等を確認してボタンを押すだけで撮影が終了します。当面は医師や診療放射線技師の雇用予定はありませんので、大変ありがたい機能です。ちなみに、オーダー以降の準備をスタッフに一任するに際して、手順等のレクチャー・教育は当然、行っています。

一方で、検査数増による読影機会の増加が診療の質向上に寄与していることも成果といえますね。更新から1年が経過し、読影スキルが以前よりも日々向上し

ていくことを実感しています。

——導入を検討されている電子カルテ周辺システムについてお聞きします。

現在、「SimCLINIC T3 α」と別会社のシステムを連携させて、診療予約とインフルエンザ予防接種のインターネット予約を行っています。今後も適宜、新しいシステム導入を計画していきたいと考えています。その第一弾として検討の余地があると思っているのが、月並みですがタブレット端末の問診システムです。

また、将来的に「スマホ決済システム」が社会的に浸透した暁には、クリニックの会計支援システムとして導入を検討する必要があると思います。その際は新たなシステム投資や手数料の支払いが生じますが、基本的に現金を扱わなくて済むようになるので安心・安全ですし、長い目でみれば会計担当職員の人件費を抑える

ことにもつながると考えているからです。

これからのクリニック経営者には、スマホ決済に限らず社会的に普及するITシステムは、「法規制等がクリアになっていて運営・経営貢献が期待できるものであれば、積極的に採用を検討していく」という姿勢も必要ではないでしょうか。

Doctor

河原崎 富強 (かわらざき ふきょう) 氏

1998年名古屋大学医学部卒。安城更生病院、山下病院を経て、2005年に星ヶ丘クリニック開設。日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会所属、日本内科学会認定医。